毎日jp

性同一性障害:学校での対応が重要　中塚・学会理事長が訴え　熊本で講演会　／熊本

毎日新聞　2013年02月26日　地方版

性同一性障害（ＧＩＤ）学会理事長の中塚幹也・岡山大大学院教授がこのほど、熊本市で講演。当事者の多くが１０代で性別に違和感を覚えながら周囲に相談できず、不登校や自殺を考える傾向が強いことから、学校での対応の重要性を訴えた。

学校、医療関係者らでつくる九州ブロック性教育研究大会・県性教育研究大会の一環。

ＧＩＤは、心と体の性が一致しない状態のこと。体の性に強い違和感や嫌悪感を持ち、将来や恋愛に不安を感じたり、自己肯定感が低下したりする。

埼玉県と鹿児島県では、ＧＩＤと診断された児童・生徒が“心の性”に合わせた制服での登校を認められたケースがあった。ただ、当事者のほとんどは家族や友人に相談できないまま学校生活を送っており、教師が気付いてもうまく対応できないケースが多いという。

中塚教授は「学校は子供が話しやすい環境づくりに努め、場合によっては専門家に相談する『つなぎ』の役割をしてほしい」と注文。「手術を受けて戸籍を変えるのはあくまでもスタート。結婚したい、子供を生みたいといった普通のことを困難なくできるようになることが大事」と結んだ。【澤本麻里子】